

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日時・場所 平成24年11月〇日(〇)

2 学年・組 3年〇組 発展(充実)コース

3 単元名 状況を読む「故郷」

4 指導事項

読むこと Ⅰ

文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (1)

慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

5 言語活動

詩歌や物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
作品の内容や表現から読み取ったことを踏まえ、人間の在り方について関心をもっている。	人間の在り方について、自分なりの考えをもっている。	文章中の漢語について着目し、語感を磨き語彙を増やしている。

7 単元について

(1) 生徒観

習熟度別クラスの発展コースである。よって学力も高い。しかし、一問一答の発問に対しては、積極的に発言するが、考察し自分の考えを述べる発問にはほとんど発言できない。それは登場人物の心情を読み取る場面で顕著にあらわれる。したがって、本単元のねらいである人間のあり方について自分の意見を持ち発表することについても指導の工夫をしていかなければ発言が活発にならないことが予想される。一方、グループでの活動は、しっかりできるグループと不十分なグループに分かれる。協同学習を展開することで、自ら考えようとする態度を育てるとともに良質な人間関係づくりを促進したい。

(2) 学校適応感尺度(アセス)より

「学習的適応」は非常に高い。多くの生徒が学習の方法もわかり意欲も高いなど学習が良好だと感じている。22人中女子〇人が学習への不適応感を抱えている。友達への援助や友達との関係をつくるスキルをもっていると感じている「向社会的スキル」は、22人中〇人が高い適応感を示している。さらに、「教師サポート」・「友人サポート」・「非侵害的關係」も多くの生徒は適応感が高く「対人的適応」は良好な集団といえる。つまり、一部の生徒を除けば、「安心で安全な教室環境」がつけられており学習を前向きに取り組めるクラスである。

(3) 教材観

「故郷」は、中国近代文学の父とよばれる魯迅の作品である。「故郷」では、置かれている立場の違いに

よって起こる人間関係の変化は主要なテーマとなっており、人間のあり方を考えさせるのに適した教材である。そのため、時代の変化によって生じる登場人物の心の動きや、登場人物の様々な変化のあり方を読み取らせることが重要である。人物や時代について十分に読み取らせただけで、人間のあり方について自分なりの意見をもつように指導したい。その際、格調高い漢語の描写にも着目させ、作者の意図を読み取らせると同時に、生徒の語彙を増やし語感を磨かせたい。

(4) 指導観

単元の目標である「人間の在り方についての自分の意見をもつ」ためには、中国の当時の社会情勢を踏まえたうえで、登場人物の変化を理解し、さらに、主題と直結する結末の部分を中心に解釈していくことが大切になる。そこで、結末部の解釈には話し合いを中心とした協同学習を仕組むことで、多様な意見を交流させることにする。具体的には、結末部の3つの段落にはそれぞれ「希望」という語がしるされていることに着目する。この「希望」こそが「故郷」を貫いている主題である。その主題を対立や繰り返し・変化などの構造を軸に据えて、論理的に見定めさせたい。主題である「希望」を協同学習におけるジャンプ課題に設定することで、さらに読みを深化させ、最終的には生徒一人一人に人間の在り方について考えをもたせたい。

8 人権教育の視点

- (1) 「自己存在感」を持たせるために、お互いの考えや方法の良さの交流を図る。
- (2) 「共感的人間関係」を育てるために、失敗や間違いは誰にでもあることを認識させ、自由に自分の意見を言い合える雰囲気作りを行う。

9 単元の学習と評価 (全6時間)

時間	学習活動・評価方法	評価の観点		
		国語への関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解・技能 言語についての
1	・ 本文を通読し、概要を確認する。	○	○	
2	・ 思い出の世界と現在の情景描写をまとめ、そこにあらわれた「私」の心情を読み取る。 (発言・ノート)		○	○
3	・ 我が家の現在の様子を過去と比較しながらまとめる。 ・ ヤンおばさんについての巧みな人物描写からその人物像を読み取り、彼女の言動について自分の考えをもつ。 (発言・ノート)		○	
4	・ ルントウとの再会場面での互いの心情を理解し、ルントウの人物像を掘り下げる。 (発言・ワークシート)		○	
5	・ 「私」が抱いた「希望」についてのイメージを交流しあい、主題について理解する。(本時) (発言、ノート)		○	
6	・ 「地上の道」について、考えを交流する。 ・ 人間の在り方について自分の考えを書く。 (発言、ノート)	○	○	

10 本時のねらい

「私」が抱いた「希望」についてのイメージを交流しあい、主題について理解する。

11 学習展開

	学習活動	指導上の工夫・留意点	評価規準・評価方法
導入	1 『本時のめあて』を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日は、主題（テーマ）に迫ることを告げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「私」が抱いた「希望」とはどんなものか考えよう。</p> </div>	
展開	<p>2 結末部を通読し、主題のありかを予想する。 (教科書P120 L20～終わり)</p> <p>3 主題を考えるために「希望」についてのイメージを考える。</p> <p>4 ③を中心にして、主題を表すキーワードを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人思考をし、キーワードをメモする。 グループで意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題を要約して示している文を「主題文」と呼ぶことにすることを伝える。 ここから後の3つの段落に①～③の番号を付けさせる。3つの段落のそれぞれの主題文はどれかと切り込む。 それぞれの段落の中で主題文の<u>ありか</u>を示している語（キーワード）を見つけさせる。「①思えば、②どきと、③思うに」に着眼させる。 構造が、対比関係（対立、変化、繰り返し）であることを理解させる。 「全く遠くなった」と「心が通じ合い」、「願わない」生活と「新しい生活」、「私とルントウ」と「若い世代」との対立に着目させる。 「願わない」生活をそれぞれ具体的に想起させる。 「新しい生活」から、希望をみちびく。 この時点で主題は何か、読み取らせる→希望 生徒自身の「希望」・「全く遠くなった」をイメージさせる。 最も印象的に描かれている情景は、どこか考えさせる。 c:「金色の丸い月」が、110ページで描かれていることを確かめる。 「金色の丸い月」は主題の「希望」と、どのようにつながっているか考えさせる。→象徴 「金色の丸い月」を念頭に置き、改めて「私」が抱いた「希望」とはどんなものか考えさせる。 	<p>A 文章中の叙述を根拠にしなが、主題をキーワードで表している。</p> <p>B 主題をキーワードで表している。 (ノート)</p>
まとめ	5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 発端部の2つの言葉を重ねる。 	